

プロジェクトで取り組んだ課題

福島県南相馬市の年齢分布・生活様式は、東日本大震災により大きく変わった。この生活習慣の変化やストレス、放射線対策は、個人の健康と保健システムにどのような影響があるのか、このプロジェクトの目的は以下の点を把握することである：

- 1) 内部被曝状況の変化とその要因
- 2) 生活習慣病有病率・死亡率の変化とその要因
- 3) 医療人材の変化による保健アウトカムへの影響

プロジェクトの結果、提言内容

- 1) 内部及び外部被曝線量測定の結果から、南相馬市は福島第一原発事故の影響を大きく受けていることが明らかになったが、多くの人が同地域での生活を続けている。高齢者においては、放射線による影響より避難のほうが死亡リスク要因が増大している。
- 2) 南相馬市の健康診断結果・入院記録を調べた結果、生活習慣病の有病率や入院率が上昇していた。この地域の保健医療システムを維持していくためには、生活習慣病に着目し、効果的な介入が必要である。
- 3) 入院記録から入院原因の変動・疾病の変化を調べ、変化する医療人材の状態を考慮した未来計画と介入が必要である。

プロジェクトの結果（≡提言）は、何を变えることを狙って、誰に向けて発信するか

このプロジェクトを通し、震災からの復興には保健医療体制の復興・維持が不可欠であることが明らかとなった。当プロジェクトの研究結果は下記の方法で発信する：

- 1) 放射線対策を行いながら、生活習慣病リスクを増大させずに生活する方法を市民に提示する。
- 2) 医療従事者に生活習慣病管理方法の教育を行い、予防と管理の改善を狙う。
- 3) 南相馬市民への還元に加え、マスメディアや国際専門誌を通じて社会的・国際的に発信することにより、より効果的な介入や復興計画の作成・実行を狙う。